

南丹保健所管内の感染症発生動向調査による週報

(急性呼吸器感染症定点、小児科定点、眼科定点、全数報告)

第 21 週 2026 年 5 月 18 日 ~ 5 月 24 日

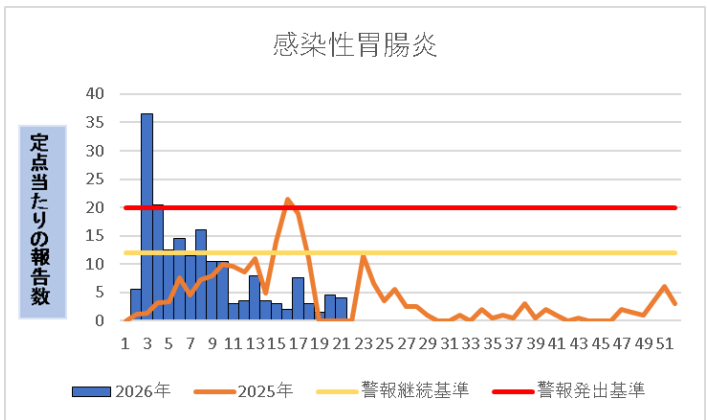
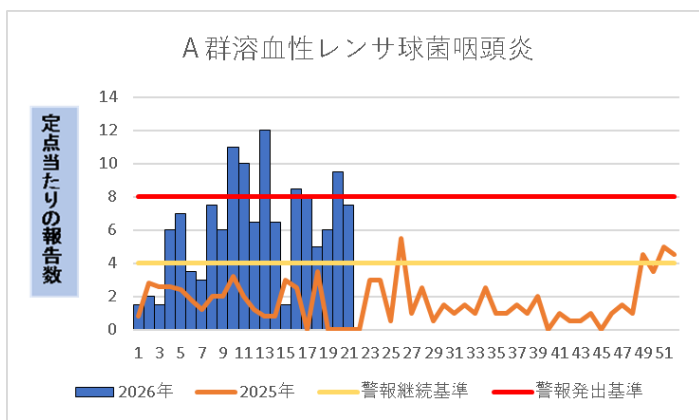
今週のコメント

南丹保健所管内では、**A群溶血性レンサ球菌咽頭炎**が**警報レベル**継続中です。
また、**水痘**が**警報レベル**解除となりました。

2026 年第 21 週の報告です。

- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点あたり報告数は、南丹 7.5(前週 9.5)、京都府 4.76(前週 4.89)となっています。
- 感染性胃腸炎の定点あたり報告数は、南丹 4.0(前週 4.5)、京都府 6.74(前週 5.97)となっています。
- 水痘の定点あたりの報告数は、南丹 0.5(前週 2.5)、京都府 1.00(前週 1.18)となっています。

今週のグラフ (下記のグラフは管内上位2位疾患のグラフを掲載しています)



- 『5年移動平均』は、過去5年間の平均値の変化を表しています。
- 『5年移動平均+2SD』は、過去5年間のデータのばらつきを考慮した上限を示しており、データの約95%がこの線より下に収まるとされる基準です。

感染性胃腸炎とは…

ウイルスや細菌が原因で嘔吐や下痢、腹痛などを引き起こす病気です。特に、ノロウイルスやロタウイルスなどウイルス性胃腸炎が多く見られます。

感染を防ぐためには、食事の前やトイレの後などこまめな手洗いをするのが大切です。食品の十分な加熱(85度~90度で90秒以上)や調理器具の衛生管理も重要です。どちらのウイルスもアルコール消毒の効果は薄いとされていますので、家庭内で感染者が出た場合、嘔吐物や便の処理は手袋やマスクを着用し、次亜塩素酸ナトリウム(家庭用漂白剤)で消毒してください。感染した際は水分補給をこまめに行い、脱水を防ぎましょう。

ウイルス性胃腸炎の場合は特異的な治療法はなく、症状に応じて整腸剤や制吐剤、水分補給目的の点滴などの対処療法がおこなわれます。特に乳幼児や高齢者では脱水症が懸念されますので、飲んで吐いてしまうなどの状態が続く場合は早めに医療機関を受診してください。

ノロウイルスについてより詳しく知りたい方はこちらのページもご覧ください。

[これだけは知っておきたいノロウイルス感染症の知識\(京都府\)](#)
[感染性胃腸炎\(特にノロウイルス\)について\(厚生労働省\)](#)

